



がん対策

長田 忠広

問 日本人の2人に1人が生涯のうち何らかの「がん」になる時代を迎えている。長寿命化が進む中、国民の生命と健康・生活を守る上で、がん対策の強化は極めて重要である。そこで岩沼市のがん対策の取組と課題を伺う。

健康福祉部長 国が示す「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」で示された胃がん検診、乳がん検診など5つのがん検診を行っています。さらに、未受診者に対して再度の検診の機会を設けるなど、受診率の向上にも取り組んでいます。

課題としては、それぞれのがん検診の受診率のさらなる向上と喫煙などの生活習慣対策によるがん予防の普及啓発と考えます。

ピロリ菌検査導入しては

問 胃がんリスク検診とは、ピロリ菌感染の有無や胃粘膜の萎縮度合いを調べることで胃がん発生のリスクを評価するもの。そこで、胃がん対策の一つとして住民検診にピロリ菌検診を導入してはどう

か伺う。
健康福祉部長 ピロリ菌を除菌すると、胃の症状の改善に効果があるとされています。

そこで、胃がんリスク検査として導入することについては、その効果、実施方法などを含めて今後、研究したいと考えます。

問 がんの治療によって髪の毛が抜けたりすることは、特に女性にとっては精神的苦痛が強く、その外見の変化によって外出をためらうことにもなる。医療用ウィッグ（かつら）は円滑な社会生活を営む上で必要なものであると考え、そこで、医療用ウィッグ購入費の助成制度を創設してはどうか伺う。

健康福祉部長 宮城県においては、平成30年4月から助成事業の実施を検討していると聞いています。県の実施状況を踏まえながら、この助成制度の実施については検討していきたいと考えます。

◎その他の一般質問
・教育行政



インバウンド対策

高橋 光孝

問 インバウンドをはじめとした国内外の観光対策、そして交流人口増加の重要性をどのように考えているか伺う。

市長 人口減少が進む中、観光客誘致によって経済効果を期待しています。人口減少で地域が疲弊しないように、取り組んでいく必要があります。仙南としても、4市9町の広域連携をして、インバウンドに取り組んでいます。

問 国が行う観光立国、仙台空港民営化、その中で岩沼市における交流人口は、どのように推移しているか伺う。

市民経済部長 残念ながら目立った効果は今確認できていないという状況になっています。

問 岩沼市の観光客誘致に対して具体策としてどのような方法をとっているか伺う。

市民経済部長 市単独よりも近隣市町村と連携したジャパンエコトラックのルートの登録を目指し、名目地場産業振興協会として二次交通の充実を目的とした、タクシープランの検討を行っている状況

です。
問 旅行会社や宮城インバウンドDMOなどへ、どのような働きかけをしているか伺う。

市民経済部長 広域で行うことが効果的であると考え、名目地場産業振興協議会などスケールメリットを生かせるような広域観光を担う組織を基本として働きかけを行っています。

海外に岩沼のアピールを

問 4市9町で海外に発信する中でも、岩沼が外されないようにアピールして行くべきと思うがいかがか。

市民経済部長 岩沼市の地域資源を有効に活用していくということが大変重要です。協議会では5つの部会を設置し、それぞれに市職員も参加して、岩沼市の特徴や有利な情報を発信して、少しでも観光の一つとして取り込んでいただけるように図っていきたいと考えています。